

令和7年度 福井県立金津高等学校 学校評価書

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・ 学習支援 〔教務部〕	① 主体性・自立心・探究心を育てるために、他者と協働して学びを深め、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める学習の充実を図る。	○ 教職員は、日々の授業の中で、生徒が主体的・協働的に学ぶ授業作りに積極的に取り組んでいる。	◇ 生徒の主体的・協働的な学びを育むために、教員は研修会等も実施しながら、授業作りの工夫や改善を今後も続けていく。教科内だけではなく他教科間でも授業実践の共有をしたり、探究支援室と連携して定期的に研修会を開催したりすることで教員の授業力を向上させ、日々の授業に活かしていく。また、外部講師を招聘しての研修会や他校の授業研究会への参加も促していく。
		○ いずれの学年も授業で自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いて自分の意見をまとめ伝えたりすることができていると感じている生徒が多い。その割合は学年が上がるにつれ高くなっている。しかし、前年度と比較すると、1年・2年の割合がやや減少している。	◇ 他者と協働して課題に取り組むことの価値が実感できる授業の計画を立てていく。また、ICTを活用するなど、より多くの意見を共有できる環境作りに努める。
		○ 保護者は子どもの主体的な学習への取組に対する評価について、全学年の満足度指数は目標指数を上回ったものの、まだ十分満足しているとはいえない。3年保護者の評価は目標指数を10.6%上回ったが、1年保護者の評価が4.6%、2年保護者の評価が4.8%下回っている。各学年、昨年度とほぼ同様の結果であった。	◇ 保護者に対し、子どもが主体的に学習している姿を見る機会として、授業公開週間や探究コンテストなどの学校行事に積極的に来校してもらおうようメール等を活用し働きかける。また、生徒の主体的な学びの様子について理解を得られるようホームページや学年だよりを通して発信していく。
2 生徒支援 〔生徒支援部〕	② 学習支援アプリ等を活用し、生徒が目的意識を持ち、自主的・自立的に学習時間や環境を調整する力を育成する。	○ ほとんどの教員がGoogleClassroomや学習支援アプリを活用し、生徒が目的意識を持って自主的・自立的に学習に取り組むことができるよう、働きかけることができている。しかし、一部の教員が、十分に活用できていないと考えている。	◇ 現在行っている学習支援アプリの活用やGoogleClassroomを利用したクラスへの連絡や授業における活用を引き続き行っていくことで、生徒の活用のさらなる定着を図る。
		○ 学年全体では目標指数を上回ったが、1年が0.7%目標指数を下回った。学習支援アプリを活用し、学習時間や学習環境をきちんと整えることができていると捉えている生徒が多い。	◇ 生徒が日々の予定や学習記録について学習支援アプリを活用することを意識づけることで、見通しを持った生活を送ったり、日々の振り返りができたりするよう働きかける。また、自らの変化やその成長を振り返る機会を設けることで、自己調整力を向上させる。
		○ 教員は挨拶からはじまる生徒へのアクセスに積極的に取り組んでいる。挨拶ができる生徒の割合は例年同様高く、部活動を中心に場に応じた挨拶ができている。保護者からの評価も高い。	◇ 引き続き集会等の支援機会を利用して挨拶の意味や基本的な生活習慣の確立の重要性を理解させるよう努める。生徒会とも協働し、挨拶の意義を考える機会を増やし、すべての生徒が校外外にかかわらず積極的に挨拶ができるよう啓発する。
2 生徒支援 〔生徒支援部〕	② 学校行事やクラス活動、部活動などに積極的に取り組むとともに、各行事において時間や内容を生徒自身が管理運営することで、生徒の主体的な態度を育成し、リーダーを中心とした望ましい集団の形成を支援する。	○ 教員は個々の生徒に向き合い、積極的に取り組んでいる。 ○ 多くの生徒が主体的・積極的に行事や部活動などに取り組んだ。 ○ 保護者の評価も全体では目標の9割を超えたが、2学年の保護者は89.6%となっている。	◇ 特別活動や部活動において生徒一人一人に応じた役割を提示し、主体的に参加できる機会を創出し、達成感や充実感を味わうことができるように努める。さらに、活動後には振り返りを行い、教職員が肯定的なフィードバックを行うことで、生徒の自己肯定感を高め、生徒の成長を支える教育活動を推進する。
	③ 生徒面談、アンケートによる情報収集を定期的に行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に対する教職員の意識をさらに高める。	△ すべての回答者において100%に到達しなかった。いじめ防止に関する高い意識高揚を図り、いじめは絶対に許されない、見逃さない学校社会の実現に取り組まなければならない。	◇ いじめ問題に対し、校内の情報システムや会議などの機会を利用して教職員間での生徒の情報共有を図り早期発見と迅速な対応につなげる体制を整える。また、継続的な教員研修を通して人権意識を磨きすべての教育活動において「自他の人権を尊重する姿勢」を職員全体で確認し合い、生徒を見守り学校全体として安心・安全な教育活動環境の構築を図る。

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
3 進路支援 〔進路支援部〕	① 進路行事の企画や模試の実施・分析・フィードバックを行い、主体的な進路選択ができる力を育むとともに進路意識の高揚を図る。	○ 教職員・生徒の全体平均値は目標指数に達したが、保護者の平均値が目標値を下回ると同時に昨年度の値より5%下降した。生徒の平均値は昨年度を上回っており、両者の満足度に乖離が見られる。土曜補習の廃止および1, 2年生対象夏期補習の日数減が、保護者の満足度に影響を与えている可能性がある。	◇ 土曜補習の代替として実施した1, 2年生対象の大学入試対策講座（希望制）および長期休業中補習の質の向上を図り、それぞれの意義や目的の理解を進めながら、生徒の積極的な参加を促す。 ◇ 保護者対象進路研修会等の機会を通じて、進路行事や模試に関する保護者への情報提供を強化する。
	② 進路ニュースの発行、研修会の実施等を通じて、生徒・保護者に適切な進路情報を提供する。	○ 教職員・生徒の全体平均値は目標指数に達したが、保護者の満足度が昨年度より4.2%下降し、目標値を下回った。特に1, 2年生保護者の満足度がそれぞれ70%台と比較的低い。保護者の満足度の低下は昨年度に引き続き起こっている現象であり、紙媒体をやめてHPのみでの伝達になったことが影響している可能性がある。	◇ 保護者のニーズを把握し、文理選択・大学入試・奨学金等に関する情報を、HPや保護者宛メールを活用してタイムリーに提供する。 ◇ 生徒に対してオープンキャンパスや各種体験への積極的な参加を促す。
4 中高一貫教育 〔中高一貫教育〕	① 連携クラスの中学3年生および高校1年生の、課題発見・解決能力を育成するため、校外のアドバイザーの協力を得て、課題探究に関する研修を行う。	○ 探究活動への取組により、課題発見・解決能力が身についたと感じることができた連携中学校連携クラス3年生の割合は高かった。しかし、身につかなかったという回答が1名あった。 ○ 中高一貫の実践活動に関して、連携中学校連携クラス3年生は満足しているという結果を得た。 ○ 連携クラス高校1年生は、探究活動において、中学3年次に身につけた能力を活用し、さらに能力を伸ばすことができていると実感しており、目標指数を上回った。その一方で、約14%の生徒が活用できていないと感じている。 ○ 中高一貫教育の実践内容について、連携中学校関係教員の満足度は、昨年度（94.7%）を上回る高い評価（97.4%）を得た。しかし、やや不適切であるという回答が1名あった。	◇ 現在実施している連携中学校連携クラスの中3生対象の各事業内容に関しては、中高一貫独自の事業であり、教員、生徒、保護者の満足度も高く、今後も継続して実施していく。中高の連絡会等により、事業や授業に関して昨年同様、相互に意見を出し合うことで内容の充実を図っていく。また、昨年度同様、中学校と高校の連携に加え、2中学校間の情報共有や連携にも積極的に関わっていく。高校の連携クラスでの取組に関して、今年度地元企業訪問など、新たな事業に取り組んだ。地域との繋がりを今後も大切にしたい。各事業に関して、中学校に情報公開し、中高一貫教育への関心を高めるとともに中間のつながりをさらに強める。
	② 中高連携に関する事業内容や取組について、ホームページや広報紙等を活用して積極的に広報する。	○ 連携中学校関係教員、連携中学校連携クラス保護者はいずれも、中高連携に関する事業内容や取組についての広報活動は、適切であると考えており、目標指数を上回る評価を得た。保護者の中で一部やや不適切であるとの評価を得た。	◇ 現在実施している事業内容や取組について、中学校教員や連携クラス生徒の意見も参考に、内容を検討しながら今後も継続していく。また、広報活動について、保護者の意見を参考にしながら、事業内容や取組がより分かりやすくなるように改善していく。
5 保健管理 〔保健部〕	① 家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深めるとともに、感染症対策としての毎朝体調チェックを通して、自己の健康管理能力を育てる。	○ 教職員、保護者、生徒の指数が目標を上回った。心身の健康管理は人生において大切なことであり、次年度以降も継続していきたい。	◇ 毎日の健康観察や保健だよりなどを活用し、生徒が自らの体調を自覚し、健康について考える機会を作っていく。また、委員会の活動や生徒集会などを通して、日々の健康管理の必要性を自覚できるよう促していく。
	② 美化委員会の活動によって、生徒一人ひとりが考え、振り返りながら主体的に環境美化に取り組む力を育成する。	○ 校内での教員および生徒の清掃に対する取組は、昨年同様指数が高かった。家庭での生活環境の整理に対する保護者の評価も目標指数を上回った。	◇ 環境美化に対する生徒一人ひとりの意識が高まることを目指し、定期的に行われる清掃週間等での美化委員による見回りや声掛けが効果的になるよう促していく。
	③ 教員対象の研修会等を通して、気がかりな生徒についての理解を深め、定期的な調査等で気がかりな生徒を把握し、確実に支援する。	○ ほとんどすべての教員が、生徒に対する理解と支援におけるスキルアップを行っている。また、ほとんどの生徒が不安なことを相談できる状況にある。	◇ 引き続き、保護者、外部機関と連携を取りながら一つ一つの事例を理解し、対応していく。また、教員・生徒対象の研修を充実させたり、定期的にアンケートを実施したりすることで、生徒が相談しやすい環境作りを努める。

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
6 ひらかれた 学校づくり 〔図書渉外部〕	① ホームページやPTAだよりを通して、本校の特色のある教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動を充実させる。	△ 保護者からの評価指数は昨年よりやや向上したが目標指数には届かなかった。学校の様子が「あまり分かっていなかった」とする意見も一定数見られたことから、掲載する情報の見やすさ、わかりやすさについては課題がある。	◇ 本校の特色ある教育活動をさらに理解してもらえるように、掲載する情報の充実化を図る。特に、ホームページ上に公開する内容については、分かりやすさについて注意しながら年間計画にしたがって適時更新していく。ホームページの更新情報を保護者に周知していく機会を増やしていく。
7 読書支援 〔図書渉外部〕	① 朝読書をはじめとした読書活動に主体的に取り組むことができるように支援し、読書マナーの向上や図書室の利用促進を図る。 ② 生徒のニーズに即した図書および資料の充実と利用環境の整備を進める。	○ 図書委員会の広報活動等により朝読書の意義の共有がすすみ、主体的に朝読書に取り組めるようになった。また、考査前や受験直前には朝読書の時間を弾力的に運用するなど実態に応じた活動を認めることで、生徒自身が判断して積極的に取り組むようになった。一方で、アンケート結果からは、家庭での読書が十分でないなどの課題が認められた。 △ ブックハンティング等生徒のニーズを反映した書籍や資料の整備に努めているものの、図書の貸出冊数は伸び悩んでいる。(デジタル機器の普及やSNSの浸透により、読書に費やす時間が相対的に減っていることが推測される。) また、選書や購入に関するニーズの汲み取りについても周知が十分とはいえず、課題が残った。	◇ 引き続き朝読書の意義を学校全体で共有するとともに、学級文庫の充実や、生徒による「おすすめの本」紹介、図書館イベントの開催等の広報活動をすすめることで、読書に親しむ環境の整備をよりいっそう進めていく。 ◇ 貸出数の調査により生徒の読書傾向や学習ニーズを把握した上で、教員間で情報を共有し、生徒にとって魅力ある書籍や資料の計画的な選書・購入を進め、利用環境の整備を進める。また、県立図書館の電子書籍サービス等デジタルを活用した読書方法を周知し、紙の読書との相乗効果を図っていく。
8 探究支援 ・ 情報支援 〔探究支援室〕	① 生徒が見通しを持った活動ができるように、3年間の活動の流れを定期的に提示し、自身の興味関心に基づいたテーマに関する課題探究活動により一層主体的に取り組めるように支援する。 ② データサイエンスに基づいた情報収集・データ分析を行うために、ICT機器の効果的な活用を促す場面を設定する。	△ 全学年で、昨年度に引き続き課題探究活動を中心とした活動計画を実施することで、課題探究活動を通して自身の成長を実感している生徒が多いものの、昨年度に比べ全体的にポイントが下がっており、わずかに目標には届かなかった。特に、「少し実感している」と感じている生徒が全体の約15%を占めていた。 ○ 生徒教員ともに、昨年度からポイントが大幅に向上し、目標値を上回ることができた。ICT機器を活用しながら、既存のデータを複合的に分析したり、自身で収集したデータを分析したりする活動を取り入れたことにより、生徒自身がICT機器を効果的に活用できていると実感している。また、外部有識者とも連携し、専門的なデータ分析の手法や考え方を身につけ、自身の主張をより説得力のあるものにするためのデータ分析であるという意識を醸成することができている。	◇ 昨年度に引き続き、全学年ともに、成長を実感している生徒が多く、本校の課題探究活動が生徒の成長の実感に寄与できているため、引き続き課題探究活動を中心として、生徒自身が様々な経験を積むことができるように支援していく。特に生徒が、より自身の成長に自信を持つことができるように、活動を振り返る際に言語化を促すなど支援の工夫を取り入れ改善を図る。 ◇ 引き続き、情報収集やデータ分析のために、ICT機器を活用する活動場面を意識的に取り入れていく。情報収集やデータ分析の方法について学ぶ機会を設けるのはもちろんだが、生徒自身が実際にICT機器を操作し、情報収集を行ったり、データ分析を行ったりできるよう、外部有識者と連携し専門的な技術や知識を習得する機会を設けながら生徒の活動を充実させるための支援を行う。

備考：「成果と課題」欄の「○」「△」は、アンケート集計結果に基づき、目標指数を達成した場合には「○」、達成しなかった場合には「△」で示している。